

令和元年9月9日

各部局等の長 殿

高浜市長 吉岡 初浩

令和2年度（2020年度）予算編成について

## 第1 予算編成のスタートにあたって

平成から令和へと新たな時代の幕が開け、本市においては、令和2年度（2020年度）に市制施行50周年の大きな節目を迎えることとなる。これまで、時代の変遷とともに新たに発生してきた諸課題に対しては、積極果敢に立ち向かい、この高浜市を未来へとつなぐための市政運営に懸命に取り組んできたところである。

このような中、近年の社会構造における最も大きな変化としては、少子高齢化が挙げられる。我が国は、世界に類を見ないスピードでの少子高齢化が進行しており、急激な構造的変動を生じさせている。

また、昨今のICT革命は、産業革命に匹敵するパラダイムシフトと言われ、AI、IoTを始めとする新たな技術革新は、市民の社会生活に様々な変革をもたらしつつある。

このため、本市においては、将来を見据えた視点に立ち、あらゆる事業において、内容・手法等の再検証に取り組み、適切な財政措置を講じていくことが必要不可欠である。

しかしながら、本市の財政状況は、安定した経常一般財源の収入確保が期待できない中、経常経費は依然として高止まりを続けるとともに、喫緊かつ最重要課題である公共施設の更新等に対しては、引き続き財政措置が必要である。加えて、会計年度任用職員制度の導入による財政負担の発生など、これまでにない厳しい状況であると言わざるを得ない。

そこで、令和2年度の予算編成方針は、「**新たな50年を切り拓く予算**」とし、編成にあたっては、財源確保に万全を期すとともに、中長期的な視点に立って、事業の集約化・縮減に取り組み、積極的な財政対策を行ったうえで予算編成を行うものとする。

職員一人ひとりにあつては、大変厳しい財政状況に置かれていることを十分に認識したうえで、新たな50年を切り拓くべく、より効率的な事業の推進及び経費の削減に果敢に取り組んでいくことを強く期待する。

## 第2 予算編成の基本的な考え方

令和2年度に市制施行50周年を迎える中、私たちは、この高浜市を未来へとつなぐための予算編成にひたむきに取り組んできた。とりわけ、公共施設の更新においては、今後とも真正面からしっかりと推し進めていくとともに、未来に向けた不断の取組みを決して止めることなく、より効率的な事業の推進及び経費の削減に努めることとし、以下、3つの基本的な考え方を掲げる。

### (1) 計画的な事業見直しを前提とした集約化・削減の視点

高止まりを続ける経常経費の削減に向け、いかなる事業であろうとも、計画的な事業見直しを前提とした集約化・削減の視点を持ち、事業の内容・手法等の再検証に取り組んだうえで予算計上を実施すること。

### (2) 経常一般財源に着目した積極的な財政対策

金額の多寡に関わらず、経常一般財源の充実に着目し、あらゆる事業において、国県支出金を始めとする特定財源の確保に万全を期すとともに、経常一般財源の削減に努めるなど、積極的な財政対策に取り組むこと。

### (3) 重点取組事業への財源配分

サマーレビューの結果等を踏まえ、重点取組事業に優先的に予算の配分を行うこと。

## 第3 重点取組事業

令和2年度の予算編成における重点取組事業は、第6次高浜市総合計画の推進を見据えつつ、サマーレビューの結果等を踏まえ、以下の5事業と位置づける。

- ①公共施設総合管理計画の推進につながる事業
- ②情報発信の強化につながる事業
- ③教育環境の向上につながる事業
- ④ICT教育につながる事業
- ⑤防災力の強化につながる事業